



「Aくんみたいにしたいねん！」
～試行錯誤から達成感へ～



10月16日(月)、2歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

良い気候の中、園庭で、大好きな先生と一緒に追いかっこをしたり、砂や水を使ってごちそうづくりをしたりするなど、一人ひとりが好きな遊びを楽しんでいました。



その中で、リヤカーに紐付きリヤカーをつなげて走るA児がいました。総合遊具の下をトンネルに見立てたりカーブする際は後ろを確認したりしながら走らせていました。それを見ていたB児も同じものが欲しいと思い、手押し車に紐付きのリヤカーをつなげようとしていましたが、うまくつなげられずすぐに外れてしまいます。紐がひっかかる部分がなくて滑ってしまう状況でした。そんなB児に

対して保育者は「あ～、また外れたね～」 「どうやったら運べるかな～？」と心の声を共感しながら、何度も試している姿を大事にし見守っていました。周りにいた友だちも「こうかな？」 「こっちにしたら？」と声をかけ始めていました。何度か試した頃に手押し車に積んであったボールを利用し、保育者はそと紐をボールにひっかけてあげました。すると、うまくリヤカーと連結して進めることができたのです。B児の表情が一変し、“嬉しさ”と“できた？”という驚き”とが混ざったような笑顔を保育者や友だちに見せていました。保育者も「できたね～」 「動いたね～」と言ひ、言葉と表情でB児の気持ちに共感していました。周りで見ていた友だちも動いた瞬間に思わず拍手をしていたのも印象的でした。



2歳児の頃は『友だちの持っているものに興味をもつ』『自分でもやってみよう』などの思いが出てきます。欲しいと思ったものをすぐに与えるのではなく、『自分てなんとかやろうとする』(=考えたり、工夫したり、試したり、繰り返したりする)過程を見守ることもとても大事な保育者の役割です。また一緒に困りながらも、自分でできたと感じられるような援助をするタイミングも大きなポイントです。

遊びの中で試行錯誤し、達成感を味わったこと(自信)は、自分でやってみようとする意欲となり、いろいろな遊びに興味をもつようになります。これは、未来に向かう力(非認知能力)の芽となり、2歳児の育ちのねっこ(=学び)につながります。

年齢が低いとつひ、『してあげなきゃ』『欲求をすぐに満たしてあげたい』と思うこともありますが、このような小さな育ちのねっこを大切に育て、未来へとつなげていきたいと思いました。

